

## 鞠智城と地域社会 — 「辺要」としての地域のなかで（要旨）

吉村 武彦  
(明治大学名誉教授)

大宰府と鞠智城の役割を、古代の律令制国家の辺要政策との関係で捉えたい。日本列島古代の辺要政策とは、蕃国は半島・大陸、夷狄は東北の蝦夷と九州南部の隼人です。ただし、蝦夷と隼人では、支配のあり方などで少くない差があります。蕃国と夷狄に対応する九州の拠点が大宰府と筑紫城であり、鞠智城も筑紫城として位置づけられました。大野城・基肆城・鞠智城が、同時に繕治の対象となっていることは、大宰府防衛の一環であることを示していると思われます。

また、天智2年(663)に倭・百済連合軍が、白村江の戦いで唐・新羅軍に大敗して以降は、対馬・壱岐から筑紫・瀬戸内海沿岸から高安城に至るまで、主に古代(朝鮮式)山城を築く唐・新羅への防衛ライン(西日本防衛ラインと呼ぶ)が構築されました。いわば二重構造の辺要体制が形作られました。しかし、西日本防衛ラインは、大宝令施行によって律令軍団制が整備され、唐・新羅との外交関係が安定化して改善されると廃止されました。

西日本防衛ラインが廃止されると、鞠智城は大宰府の外郭線で結ばれた大野・基肆城とともに、10世紀初頭まで筑紫城として扱われて維持されました。蕃国・夷狄に対する「西辺」として防衛の役割を持たされたからです。しかし、律令制国家の隼人への夷狄政策の変更ともなあって、鞠智城の役割は変化したと思われます。この間の事情を語る文献史料は存在しませんので、鞠智城Ⅲ期(8世紀第1四半期後半～第3四半期)における発掘調査の成果から学ばなければなりません。その後は、二つほどの変遷がありますが、兵庫・不動倉が重要な意味をもちます。

報告の構成は、

### 一 律令制国家の辺要政策 — 律令法の辺要と「辺要」

- (1) 律令法の辺要
- (2) 大宰府と辺要政策

### 二 筑紫(西海道)の辺要政策と古代山城

- (1) 大宰府以前の官司・官人
- (2) 大宰府
- (3) 筑紫の対隼人政策
- (4) 古代山城築城の技術的基礎
- (5) 律令制における山城関連の維持策

### 三 肥後国と鞠智城

- (1) 律令制以前の肥後
- (2) 肥後国と菊池郡
- (3) 鞠智城の特徴と役割

です。